「港の風景」写真コンテスト2021

豊かなウォーターフロントフォトコンテスト

本コンテストは、写真を通じて津々浦々の港や海辺の四季折々の姿を表現していただき、ともすれば港と疎遠になりがちな方々に対してその魅力を再認識していただくと共に、ウォーターフロントへの関心を高めていただくことを目的としています。
今年で30回目の本コンテストには、559点の応募がありました。いただいた作品に対して令和3年10月12日に厳正なる審査を行った結果、次のとおり入選作品を決定させていただきました。

総　評

昨年に引き続き、今年も海辺のイベントの多くが中止となりました。また海外からの大型客船の入港もなく、楽しく撮影できる魅力的な被写体が激減しているのにもかかわらず、応募点数は大幅に増加しました。最初に行う一次審査を終えた後でも、昨年の応募総数に近い点数が残っているという状況で、おのずと選考には力が入り、よりよい結果が得られたように思います。

今年も4部門での募集でしたが、作品内容からすると「みなとの活動」「賑わい」部門がやや低調だったのは致し方ありません。その代わりというわけではありませんが「防災」「自然・歴史」部門ではこれまでにない被写体、同じ対象でも違った捉え方をした作品が少し増えていたのが光明といえます。

プリントの仕上がりで気になるのが、昔の銀塩（フィルム）写真時代には目立たなかった、彩度（鮮やかさ）を強調しすぎた作品が増えていることです。色彩に関しては好みもあり一概には言えませんが、鮮やかにしすぎるとそのぶん立体感が失われます。陰影のないイラストに近い印象になるのです。デジタルデータは大幅な調節が可能なので、逆に節度が必要、基本的には豊かな色調、陰影を心がけていただければと思います。

最優秀賞　国土交通大臣賞
脇森茂隆
夕日の大阪港
大阪港

撮影場所は大阪北港。世界最大級の水族館「海遊館」の近くにある中央突堤です。釣り場としても有名ですが、本作品は夕日の名所としても知られた景観の魅力を余すところなくとらえています。広大な港内を見渡せるデッキに集う人々、停泊する客船、作業船のシルエットが夕日に映えます。そして何より、対岸のガントリークレーンがキリンの群れのようで、無機質な港の光景に愛嬌を加えています。静かに終わる港の一日が凝縮された画面になりました。

国土交通省港湾局長賞

上野嵩太

サン・ファン号未来への出航

石巻港

被写体はサン・ファン・バウティスタ号（復元船）。江戸時代初期に慶長遣欧使節を乗せてイスパニアやロ ーマに航海したガレオン船です。「今年解体されるので、東北の復興を見守ってきた姿を石巻の海と天の川で飾りたい……」という作者の意図は十分に達成されています。デジタルカメラになって星空が写しやすくなったとはいえ、地上の描写とのバランスが見事で、違和感がありません。天の川に向かって出航するかのような姿は、俯瞰撮影の妙といえます。

（公社）日本港湾協会会長賞

山本健太郎

晴れの日

波止浜港

しまなみ海道四国側の基点・今治市波止浜（はしはま）にある、内航船を年間10隻以上新造する矢野造船の進水式です。大型船のドック進水ではなく、造船台で組み立てられ船体が進水台を滑り降りる船台進水式の一コマ。風船が舞い上がり、テープを引きずりながら船尾から無事進水、式が最高潮に達した瞬間がタイミングよく記録されました。船体の無事完成を祝う、まさしく「晴れの日」の雰囲気が、高所からの撮影によって見事に表現されています。

港湾海岸防災協議会会長賞

出口慎也　留萌港

咆哮

留萌港は、上川・空知地方の流通拠点港。また留萌港は、薙工事や改修の歴史から土木学会推奨土木遺産に選ばれています。難工事の原因は冬の日本海の激しい波浪、その雰囲気を画面一杯にとらえているのが一番の魅力でしょう。波が消波ブロックによって白く砕ける様は圧巻で、海鳥や灯台の脇役も効いています。また、悪天候時にホワイトバランスを日中光モードで写したためか、全体に青みがかった描写が緊張感を高めています。

みなとの活動部門賞

中野金吾　新潟西港

フィナーレ

新潟港は二つあり、西港は信濃川河口両岸（中央区と東区）が港域。上流から流れ込む大量の土砂によって水深が浅くなるのを防ぐために、浚渫が欠かせません。その浚渫作業を、衒いなく真正面から端正なフレーミングでとらえています。明るい色調も効果的。掬い上げた瞬間、あふれ流れ落ちる土砂を高速シャッターで写し止め、肉眼ではとらえられない形を切り取っています。

防災部門賞

山西典夫　手結港

防波堤

可動橋で知られた手結（てい）港は、1653年に土佐藩家老・野中兼山が完成させた日本初の本格的な掘り込み港。現在も稼働していますが、その外周を囲み、土佐湾＝太平洋から直接押し寄せる波を遮る防波堤が本作品の主被写体。暗雲が垂れ込める悪天候の中、暗い画面に白波が目立ちますが、堤内は穏やか。消波ブロックと防波堤の働きをしっかりととらえています。

賑わい部門賞

長友逸郎　石狩湾新港

真夏の日

小樽市の大浜海岸に設けられた「おたるドリームビーチ」は、開設期間が6月下旬から2 ヶ月間と長く、北海道でも指折りの海水浴場です。8月初旬、夏の盛りに涼を求める人々の姿と、立ち並ぶ風力発電の風車、更に奥には石狩湾新港の施設群を、夏雲の下に混在させた新鮮な視覚が光ります。旧来のイメージにとらわれない、現代のレジャースポットらしい風景となりました。

自然・歴史部門賞

堀内勇　下田原漁港

海霧

田原港や田原海水浴場を守るように、太平洋に突き出した岩礁群が森戸崎です。太陽が水平線に近く光が弱いために、丸い輪郭がハッキリと見えるのが印象的。また色温度が低く黄赤味がかった光が、画面の色調を統一してモノトーンの美しさが生かされました。さらに、シルエットとなった島影、漁船、海鳥たちを包み込むような海霧が、この情景を一幅の絵と変えました。

優秀賞

樋口文二郎　片瀬漁港

湘南富士夕景

江の島にはヨットハーバーのある湘南港がありますが、これは片瀬海岸側の江ノ島大橋のたもとあたりから西側を写したのでしょうか。手前は境川の堤防、その奥は片瀬漁港の防波堤のようです。望遠レンズでの距離感の圧縮が効果的。黄味がかってきた空の下、大きな陰富士と散歩や釣りに興じる人々のシルエットが好対照。好天に恵まれた晩秋の一日の、終わりの始まりです。

山崎秀司　伊根漁港

雪の舟屋

京都府の日本海に面した伊根湾沿岸に軒を連ねるのが舟屋。一階に船を収容、二階は作業場になった建屋が230軒ほど海際に並んでいるそうです。遊覧船からの撮影でしょうか、適切なフレーミングで舟屋の状況が過不足なく描かれています。また厳冬期の２月、海面近くを飛ぶウミネコを点景にしたモノトーンの画面が、降雪に鎮まる漁村のたたずまいを感じさせてくれます。

片山和澄　横浜港

ハンマーヘッド客船ターミナル供用開始

新港ふ頭客船ターミナルの複合施設が横浜ハンマーヘッド。その先端にあるのが、1914年に建造されたハンマーヘッドクレーン。大切な産業遺産として土木学会選奨土木遺産などに指定されています。役目を終え保存されたクレーンと、横浜の海の代表的な景観となった横浜ベイブリッジ。ライトアップされた新旧の建造物の対比によって、横浜港の歴史とスケールが表現されました。

齊藤芳正　横須賀港

名所巡り

撮影場所は、三笠公園の中央広場横の噴水池。背景に写し込まれた煙突は記念艦三笠、台上にあるのは東郷平八郎の銅像です。そして、手前に大きく写し込まれた自転車と人物のモニュメントが主被写体。この公園のシンボルである船と銅像は脇役として場所の説明用とし、ちょっと愉快な自転車像を主役にしたことで、タイトルの「名所巡り」を連想させる画面となりました。

太田誠二　新潟西港

スクラップ劇場

新潟西港の臨港ふ頭、スクラップの船積み集荷ヤードが撮影場所のようです。鉄屑などは重要な貿易品目で、港とのかかわりは深いのですが、見た目が地味なせいか応募作品はほとんどありません。くすんだ茶一色の鉄屑と、ポツンと置かれたショベルカーとの対比。そしてさらにもう一つ、鉄屑の山と豪華な大型客船との対比が、何かを象徴しているような一コマとなりました。

入　選

今回に限りませんが、入賞作と入選作の違いは、単純な写真作品としての優劣だけではありません。差が少なくて、それだけでは決めにくいという面も多少ありますが、選考時に比較的重点が置かれるのは、本コンテストの応募要項に沿っているか、という基本的なことです。港湾に対する撮影者の視点を選考する側は評価するわけです。その辺りは、テーマ自由の写真コンテストとは違うわけで、念頭に置いていただければと思います。

またこれも例年同様なのですが、選考時に競り負けしやすい（逆のことをすれば競り勝てる）いくつかのパターンがあります。

- 前年の入賞作と同じ被写体。写し方も同じ。
- 狙いが絞りきれず、余分な写り込みが多い。
- プリントの色調が派手、またはくすみすぎ。

以上に留意して、来年の応募に備えてください。

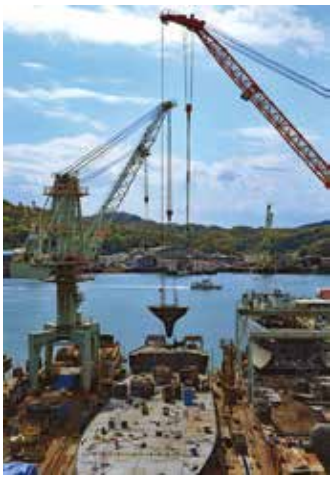
島崎守
四日市から世界へ

藤田隆
洋上風力発電発進

齋藤尚夫
橘丸の連携作業

小森一美
8月の夕暮れ

小山沙織
本邦到着



中川智貴
造船の町

乘松賢一
尾道水道

入　選

大島正美
横浜開港祭２０２１

浅見崇司
すべての人にエールを

山内美代子
三々五々

西浦勝彦
いざ、出陣

関矢俊夫
テトラポッドのある風景

山根淳市
橋梁の下も

平野昌子
ヒーリングタイム

増田俊次
夏の夜明け

村上雅巳
砂浜復活

端雅利
綱取り

加藤歩
止まない雨はない

菅野照晃
極彩色

山中健次
雛流し

白石信夫
働く重機

石川賢一
今治の空

白木勇治
出港式

国土交通大臣賞
脇森茂隆「夕日の大阪港」（大阪港）
国土交通省港湾局長賞
上野嵩太「サン・ファン号未来への出航」（石巻港）
日本港湾協会会長賞
山本健太郎「晴れの日」（波止浜港）
港湾海岸防災協議会会長賞
出口慎也「咆哮」（留萌港）
みなとの活動部門賞
中野金吾「フィナーレ」（新潟西港）
防災部門賞
山西典夫「防波堤」（手結港）
賑わい部門賞
長友逸郎「真夏の日」（石狩湾新港）
自然・歴史部門賞
堀内勇「海霧」（下田原漁港）
優秀賞
樋口文二郎「湘南富士夕景」（片瀬漁港）
片山和澄「ハンマーヘッド客船ターミナル供用開始」（横浜港）
西山昌敏山崎秀司「雪の舟屋」（伊根漁港）
齊藤芳正「名所巡り」（横須賀港）
太田誠二「スクラップ劇場」（新潟西港）

入選
中川智貴「造船の町」
乗松賢二「尾道水道」
島崎守「四日市から世界へ」
藤田隆「洋上風力発電　発進」
齋藤尚夫「橘丸の連携作業」
小森一美「8月の夕暮れ」
小山沙織「本邦到着」
浅見崇司「すべての人にエールを」
西浦勝彦「いざ、出陣」
山根淳市「橋梁の下も」
増田俊次「夏の夜明け」
端雅利「綱取り」
大島正美「横浜開港祭2021」
山内美代子「三々五々」
関矢俊夫「テトラポッドのある風景」
平野昌子「ヒーリングタイム」
村上雅巳「砂浜復活」
菅野照晃「極彩色」
白石信夫「働く重機」
白木勇治「出港式」
加藤歩「止まない雨はない」
山中健次「雛流し」
石川賢一「今治の空」

主催
(公社)日本港湾協会
港湾海岸防災協議会
後援
国土交通省
協賛
(一社)日本旅客船協会
(一社)ウォーターフロント協会
(一社)日本外航客船協会
(一社)日本マリーナ・ビーチ協会
(一財)みなと総合研究財団
(一財)港湾空港総合技術センター
富士フイルムイメージングシステムズ(株)

審査員(順不同・敬称略)
齋藤　潮〈東京工業大学大学院教授〉
廻　洋子〈敬愛大学特任教授〉
富岡畦草〈写真家〉
松野正雄〈写真家〉
逸見　仁〈写真家〉
中原正顕〈国土交通省港湾局海洋・環境課長〉
西村　拓〈国土交通省港湾局海岸・防災課長〉
須野原豊〈(公社)日本港湾協会理事長〉